

『講左衛門さん、今日は、かぐや姫の続きの話をしてくれるでまっすん。現在の浅間神社のご神体は、かぐや姫ではなく、木花咲夜姫（このはなさくやひめ）と言われているでまっすん。呼び方が違うのは、どうしてでまっすん？』

『諸説様々じゃが、江戸時代に国学者であり儒教学者の、林羅山（はやしらざん）「1583年～1657年」という人がおったんじゃが、その人が、富士山のご神体は、「このはなさくやひめ」と表記したことからという説があるんじゃ。しかし、ご神体の呼び方ばかりではなく、富士山の表記の仕方も現在では、「富士山」と統一されているが、昔（万葉集や竹取物語）は、「不二山」「不尽山」と書かれていた時代もあったんじゃよ。』

『時代によって、呼び方が違ったり、大切なご神体の名前が変わってしまったら、どれが正しいのかわからないでまっすん。混乱するでまっすん。』

『確かにそうじゃ。しかし、どれが正しい表記であるかということ、理解するのは非常に難しいことじゃ。現代人の解釈では測れないことが多い。なぜなら、自然環境や社会環境が全く違っているということじゃ。その上にたって解釈することができるかどうかなんじゃ。しかし、何よりも大切なことは、現代の富士山を取り巻く環境から、何を大切に思い、どのように後世に伝えるかをしっかり考えることだと思ふんじゃ。話がそれてしまったが、忍草の浅間神社のご神体は、1315年に造像されたものじゃ。林羅山が生まれる以前のご神体なんじゃ。かぐや姫と呼ばれていた時代、また、鷹飼・犬飼（かぐや姫のおじいさん・おばあさん）、かぐや姫家族が現代に残っていることが認められて、三体のご神像は国指定文化財となったんじゃよ。』

『静岡県側にも、たくさんの浅間神社があるでまっすん。かぐや姫や鷹飼、犬飼のご神体は、他の神社には祀られていないでまっすん？』

『かぐや姫だけじゃったり、鷹飼・犬飼だけのご神体をお祀りしている神社はあるんじゃよ。しかし、三体が一緒にお祀りされているのは、ここ忍草だけなんじゃ。』

『そんなにすごいご神体だったでまっすん。感動したでまっすん。これから、どのように守っていったらいいのか、皆でしっかり話し合いをしなければいけないでまっすん。』

『そうじゃな。クニマッスン頼んだぞ。さて、今回は、大我講について話をしようかのう。大寄友右衛門が大先達となって、関東一円に広がった講中なんじゃが、その存在は、ほとんど世に知られていないんじゃ。何回かシリーズで話をしようかのう・・・』



ふじのたいがこうざえもん  
富士大我講左衛門 年齢不詳

職業 大我講の先達

(先達とは富士山案内責任者)

クニマッスン

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

口癖 でまっすん…



『講左衛門通信』は、  
第2・第4日曜日に発行予定